

昭和19年4月1日 土曜

機 密 戦 争 日 誌

一 中部太平洋方面敵機動部隊、対シテハ本月上旬中ハ  
警戒ヲ要ス  
一 「インパール」主作戰方面ハ頻調ナリ  
一 18Dハ戦力相當ニ消耗シアリ  
一 「バラオ」空襲ニ依ル陸軍船ノ損耗ハ七〇〇〇ト、海軍艦  
ハ二一隻五〇〇〇ト也

105

1066

昭和19年4月2日

一昨日「メレオン」200機、空襲ヲ受ル  
二昨夜「ドラク」空襲アリ  
三「インパール」作戦進捗ニ伴ヒ自由印度假政府ヲ發展  
改組シ自由印度政府ノ樹立ヲ容認スル件ニ関シ  
関係各省間ニ協議ス  
海軍及大東亞省ハ現状ヲ可トスル意見ナルモ更ニ  
慎重ニ研究スルコトセリ

1067

昭和19年4月3日 月 曜

機 密 戦 争 日 誌

一 神武天皇祭

一 ビルマニ降下セル「グライダー」部隊ニ其後益々増勢  
セルカ如ク其数ハ「ロロロ」ニ達シアルカ如シ  
我方ハ之ニ対シ集成約七ヶ大隊ヲ以テ対代中  
ナルモ之カ處理ニ相當ノ時日ヲ要スルモノト判断  
セラル

106

1068

昭和19年4月4日 火

一昨夜種村大佐總長ニ對シ「モスコ」ノ報告ヲ實施  
シ本日ハ宮中ニ於テ内府及侍從武官長ニモ同様  
ノ報告ヲ為ス事情ハ既ニ御上ニモ言上セラレ  
アリト洩レ承リ感激ニ堪ヘス。

一對ソシ施策タルヤ真ニ國體護持ノ外交ニシテ  
一步ヲ誤レハ皇國ノ運命ヲ決ス。

一次級次長ヨリ今後對ソノ關係ハ物資交流  
依ル以外ニ方法ナキヲ以テ之カ對策ヲ研究スヘシ  
トノ意見アリ。

意見然可

1069

昭和 年 月 日 曜

一、大東亜省南方事務局ハ、萩原氏南方視察ノ報告アリ  
其ノ要旨左ノ如シ、

1. 佛印ノダイ、ビルマニハ多少ノ動搖ハアルモ、日本ニ離反スル  
等ノコトハナシ。然レトモ積極的・精神的協力ヲ求ムルハ  
過望ニシテ消極的協力ノ限度ナリ。

從ツテ當分政策的ニ小策ヲ弄スルハ不可ナリ。

2. 比島ハ趣ヲ異ニシ敵ノ上陸等ノ場合ニハ民心ハ全部敵

側ニ趨ル実情ナルヲ以テ防衛強化ヲ先決問題トス

從ツテ一部政府ノ肅正工作等ヲ必要トスルニ至ルヘシ。

3. ビルマヲ指導者國家トセルハ一考ヲ要ス。

昭和19年4月5日 水曜

一次級次長水戸方面ニ於ケル陸大現戦視察  
松谷大佐隨行

1071

昭和19年4月6日 木 曜

機 密 戦 争 日 誌

一 南東方面、敵策動漸次鎮靜セリ。  
一 北東方面、敵ハ尚警戒ノ要アリ。  
一 インパール作戦、コヒマ南方ヲ遮断ス

昭和19年4月7日 金 曜

一 秦次長陸大現戰視察ヨリ歸任 次長要望左如シ

1. 水際撃つ減戦斗法ノ研究

2. 海空陸ノ立体戦ノ研究

3. 地上優良裝備敵対スル戦法ノ研究

一 加藤中佐(軍務)ノ「キモール」歸任報告要旨

1. 「コスト」ノ「キモール」視察ハ好印象ヲ與ヘタルカ如ク

今後ノ日葡關係ハ良好ナル影響ヲ與フヘシ

2. 「コスト」ノ報告ニ基ツキ葡側ヨリ帝國ニ對シ新ナル

要求ノ提出ヲ予期セラルモ 斯カル際ニハ全面的ニ許

容スル方針ヲ可トス。

3. 対壕政謀略ハ目下海軍ノ担任ナルモ 殆ント實施シアラス

1073



昭和 年 月 日 曜

機 密 戦 争 日 誌

陸軍トシテ純然タル作戰情報ノ見地ニ於テ研究  
實行スルヲ必要トス  
陸軍現地自治ト海軍軍政ト調整ヲ必要トス。

昭和19年4月8日 土曜

一五日「コヒマ」ヲ攻略セリ

一五號作戦演習ニ伴ヒ中北支ノ軌條撤去ハ約五〇〇斤

ニシテ北支ノミニテ約一五〇斤ヲ分担スルヲ要シ

北支軍管内ノ撤去計畫ニ基キ認可申請アリタリ

1. 長辛店—西便門 10斤 (可)

2. 朔縣—寧武 27斤 (不可)

3. 定襄—河辺村 18斤 (可)

4. 平遙—汾陽 34斤 (可)

5. 原平—崞縣 18斤 (可)

6. 東周—路安 37斤 (不可)

右ノ中撤去不可分ニ相應スル軌條ハ滿州作戦集積ヨリ融通ス

一交通防空兵棋實施

昭和 19 年 4 月 9 日 日 曜

一昨日引續キ防空兵棋實施

本兵棋ニ対スル所見

1. 京濱名古屋阪神北九州四大要地カ同時ニ空襲セラ

レタル場合

2. 概ニニケ日毎ニ空襲ヲ受ルル場合

右ヲ基礎トシ空襲ス予期シ事前ニ計重準備シ置クラ

要スル事項ト空襲直後實施スヘキ事項トニ區分シ

研究スルヲ可トス

而モ空襲対策ノ主体ハ防衛ヲ除キ殆ント大部カ内政

事項ニ在リ以テ陸軍省内閣等ニ於テ強力ニ研究

準備スルヲ必要トス交通ハ重要ナル因子ナルモ飽迄

一分担事項ナリ

昭和 19 年 4 月 10 日 月

一遊休機帆船ヲ活用シ南方ヨリ石油ノ還送ヲ実施セント  
スル案 海軍及運通省ヨリ協議アリ  
提案セル所ニ依レハ昭和十九年度ニ於テハ新造機帆船ニ  
對シテハ重油ノ配給ハ殆ント望ミ得ヌ從ツテ二十万屯  
近クハ遊休スヘントノ意見ナリ。然レトモ機帆船ノ現狀  
把握ハ著シク不良ニシテ實体ハ全く不明ナリ。二月決定ノ  
陸軍徵備二万七千五百屯ニ對シテ完了セルモノハ約八千屯  
三月決定ノ陸軍分八万屯ニ對シテハ約七〇〇〇屯ヲ徵備シ  
得タルニ過ギズ  
即チ機帆船ノ実情ハ作戰ノ要請ニサヘモ應ジ得サル狀況  
ニシテ遊休稼働船カ大量アルヘントハ考ヘラレヌ  
從ツテ陸軍トシテハ先ツ陸軍徵備船ヲ完全ニ供出シタル

1077

昭和 年 月 日 曜

後實行ナルニ於テハ一般構想ニ對シ同意ナリ。  
然レトモ右輸送用ノドラム罐及往船燃料ノ供給ニハ  
應シ得サルコト、ス。

機帆船ニ依ル石油還送ノ着想ハ可ナルモ今後新造ノ  
機帆船中相當量ヲ「木造クシカール」ト為シ是ニ依リ輸送  
ニ任シ其ノ油ヲ以テ機帆船全般ヲ運用スル如ク木造船  
計重ヲ変更スルヲ可トスル意見。

二十二日重臣會議開催セラル、コトナレリ。  
總理ノミ出席ノ予定。

昭和19年4月11日 火曜

一 大連ニ待機訓練中ノ海上機動兵團ヲ南方總軍ニ轉屬セラレ

二 三月中陸軍飛行機ノ生産高ハ一三六〇機ナリ但シ新鋭機ノ生産ハ予定ニ達シテラス

三 揮發油ノ運送量減少ト陸軍在庫<sup>(激)</sup>減ニ鑑ミ今後ノ航空運用ニ燃料節約ノ見地於テ重点的使用ニ徹底スルヲ必要トス(シ)

一 南方視察ニ対スル殿下ノ御意見(松谷大佐)

1. 南方民族ニ対スル統治ノ要諦ニ戦局ト物ナリ

2. 南方諸國ノ独立ハ過早ノ感アリ

3. 自由印度假政府樹立ヲ帝國政府トシテ正式ニ支援

1079

昭和 年 月 日 曜

機 密 戦 争 日 誌

スルハ一考ヲ要セスヤ  
右御意見ハ從來ノ経緯ニ関シ御承知無キ点多ク  
為ノ誤解モアルコト、思考ス

112

1080

昭和19年4月12日 水

1. トラック南方特空母九隻ヨリ成ル機動部隊アリ。
2. 本日殿下南方視察結果ニ関シ第一、第三部、部課長ニ対シ御報告アリ、要旨左ノ如シ
1. 華僑ノ勢力利用ニ著意スルコト
2. 回教ノ利用
3. 英米蘭ノ植民地統治方式ヲ十分研究スルコト
4. 米英ノ善意ノ善政、日本ノ善意ノ悪政ナリ。

1081



昭和19年4月13日 木 曜

機 密 戦 争 日 誌

「インパール」敵後郭陳地ハ半年ケ年ノ日子ヲ費シ相當  
堅固ナリ

一昨年末独リ歸來セル技術者ノ實施セル独ノ狀況(松本佐藤取)

トバルカン諸邦ニ於ケル食糧衣糧ハ自由販賣シアリテ今後

更ニ餘裕ヲ存シアリ、独モ主食ノ闇ハ絶対ニナシ

ニ工場ノ爆殺ヲ被害ハ相當大ナルモ復舊資材整備シアル

ヲ以テ修理復舊ハ極メテ迅速ナリ

ニ俘虜ヲ使役シテ農産物増産ニ努メ成績良好ナリ

一敵下ヨリ近畿地方ノ名所ヲ無防備都市宣言ヲ為シ

保存スルヲ着意ヲ要セスヤトノ御意見アリ

戦局ノ前途ニ対スル御考察ノ然ラシムル所ナリト雖モ

更ニ堅確強毅ナル御性格ノ陶冶ニ関シテハ、然ル可キ  
 補佐官ヲ附シテ御補導申上ケルコト最モ肝要ナリ、  
 一國民政府農業顧問那須博士ヨリ最近ニ於ケル中支  
 農業増産ノ実情ニ関シ聽取ス  
 一、中支ニ於ケル日華双方共技術障礙（指導）甚重ナルニ從ツテ  
 目下ノ施策ノ成果ヲ本年中ニ求ムトスルハ過望ナリ、  
 一、治安確立シテラサレ地已ニ對スル技術ノ滲透ハ極メテ  
 困難ナリ、  
 一、農民ニ一般ニ増産ノ意思ナシ、  
 一、今後増産運動ニハ治安思想、増産ノ三者ヲ  
 併行、一元的ニ推進スル思想ヲ可トス。

昭和 年 月 日 曜

機 密 戦 争 日 誌

即チ縣ヲ指定シ模範青年団ヲ作り是等ノ青年ヲ  
教育シテ増産意欲ヲ振興スル以外ニ方法ナシ  
シ儲備ノ放出額ハ目下ニ五〇億元年末ニ六七五〇  
一〇〇〇億元ニ増大スル虞アリ

114

1084

昭和19年4月14日 金

一、ビルマニ降下セル敵「グライダー」部隊ノ飛行場極メテ  
堅固ニシテ、六ヶ大隊ヲ以テ攻撃セルモ頓挫セリ、  
装備ノ優劣ニ依ルモノナリ、  
一、ブーゲンビル島沖部隊ハ食糧七月末迄保有シアリ、  
一、中部太平洋方面ノ敵情ヲ次ノ如ク判断シアリ、  
五月中旬頃「ボナペ」ヲ攻略シ、次テ「トラック」メレヨン  
ノ  
中間地ニ來襲スルナラン、

1085

昭和19年4月5日 土曜

機密戦争日誌

一丁「假政府」ヲ發展改組シ自由政府ヲラシムル件ハ省、  
部意見一致セリ。但シ飽迄モ假政府タル性格ハ  
変更スルコトナク、且時機ハ作戦ノ進展ヲ十分見極メ  
タル上実施スルコト。  
一月独伊三國混合委員會開催。独ニ対シテハ著シク  
好感ヲ與ヘタルカ如シ。

昭和十九年四月十六日 日 曜

一 機帆船徴備、實施情況ニ関シ陸軍省、説明ヲ聴取ス  
二月及三月、連絡會議決定、徴備量ハ二一三ヶ月遅延ノ  
見込ナリ、機帆船、資体把握不十分ナルト之ヲ徴備ニ  
各種、困難ナル因子、存スルハ勿論ナルモ熱意モ亦少シ  
一次級次長陸大、カ予、演習視察、為、宇品ニ二泊、  
予定ヲ以テ出張ス  
總務課長 嬉野少佐、橋本少佐、隨行ス

1087

昭和十九年四月十七日

機密戦争日誌

一海軍ヨリ油槽船九万所、徴備問題提案アリ

昭和十九年度油ノ要還送量ハ最少限三六〇万KL

(油槽船建造〇万所 損耗月ニ〇万所)ヲ要シ之ヲ達成

ニ異常ノ努力ヲ要シ現状ヲ以テ推移スル場合ニ於

テモ二六〇―二七〇万KL程度ニ低下ノ虞大ナルヲ以テ斯ノ

如キ増徴要請ハ不可解ナリ

更ニ西統帥部作戦関係ノ緊急ナル連絡ノ後如何

ナル程度ニ海軍ノ反撃ヲ作戦ヲ実施スルヤヲ決定

スルト先決問題ナリ

昭和19年4月18日 火曜

- 一 第二方面軍、當分間、バオ、位置ス
- 一 第二方面軍、敵情判断、依、中部太平洋方面、於、敵、先、比島ヲ押、次、本土攻略ヲ企図ス、シ、
- 一 第十六軍、總兵力ハ半減シ、目下九万五千ニ低下セリ。
- 一 比島航空基地、整備不十分ナリ。
- 一 ビルマニ於ケル一師團ノ損耗ハ平均五千ナリ、兩期明迄
- 一 三、六更ニ二千ノ損害ヲ予期ス（夏迄ニ三万ヲ補充）
- 一 14Aハマニラ、郊外「マッキンレイ」兵舎ハ移転スル予定
- 一 日ソ軍事圖書ノ交換ハソノ氣乗セス
- 一 今後、日ソ印度作戦ハ軍事的ニ「アツサム」ハ

1089



昭和 年 月 日

機密戦争日誌

政略的ニハ、チタゴンへ侵攻スルヲ可トス  
一次級次長等品出張ヨリ歸任ス。

昭和19年4月19日 水曜

一、インパールノ敵ノ抵抗ハ極メテ頑強ナリ。

二、京漢打通作戰昨十八日開始ス

一、四月十八日迄ニ於ケル船舶損耗沈没3.8万屯(A2.5万屯)

損傷5万屯ナリ。成績良好ナリ。(目下ノ處)

一、外務大臣ヨリ松谷大佐ハ

先般佐藤大使ハ左記訓令ヲ與ヘタリ。

1. 棧ヲ見テ特使派遣ノ件ヲ切リ出スコト。

2. 經濟交易滿ソノ打通問題ヲ提案スルコト。

3. 日ソノ關係ノ今後ノ世界政局ニ及ホス影響者ヲ活合

フコト。

右ニ基ツキ佐藤大使ハモコトヲレト會談ノ結果モレハ

昭和 年 月 日

機 密 戦 争 日 誌

1. 特使派遣一件、昨年、返答ニ變化ナシ、但シ新動機  
 カ發生シタル場合ニ於テハ更ニ研究ス

2. 經濟關係ニ就テハ大使ノ積極性ヲ一言シタルミニシテ  
 他ハ語ラス

尚佐藤大使ハ本件ニ関シ更ニ二十日モト會議事是

一、小日山滿鉄總裁、鮮滿鐵道一元運營問題ニ関シ  
 小磯朝鮮總督ト懇談ノ結果ヲ星野書記官長(連  
 絡セリ、其ノ要旨左ノ如シ)

一、總督トシテハ一元運營ニ根本的ニ反対ハシラス

一、時的ニ混乱ヲ防止スル手段ハ他ニナキヤヲ検討ノ

要アリ

2. 朝鮮統治ハ運輸ヲ離レテ存在セザラ以テ根本的機構  
ノ改正ヨリモ現機構ノ運用ニ依ツテ目的ヲ達成シ  
得サルヤ

3. 近ク總督上京ノ際話ヲ進メ度

一 關東軍作戰連絡ノ要旨

1. 關東軍ノ現在ノ戦力ハ17年末ニ比シ1/2ニ低下シ  
テ以テ更ニ師團ヲ抽出スルコトハ殆ント不可能ナリ  
秋頃迄ニハ2/3程度ニ恢復シ得ヘシ但シ兵器ノ  
予備ハ全然ナシ  
2. 部隊ヲ抽出セルモ65編成ニ轉用セルモノ92ナリ

昭和 年 月 日

機 密 戦 争 日 誌

3. 轉用抽出に依り師團の戦力ハ赤軍師團ニ略奪シ
  4. 人員 63万ヨリ 40万トナリ 補充後 51万トナルモ 八月 航空ヲ更ニ 8万 抽出セラル
  5. 彈藥ハ 66 師團會戰分ノ所要集積對シ 44 師團 會戰分ヲ準備シアリタルモ 現在ハ 35 師團會戰分アリ
  6. 関東軍トシテハ 兵力 資材 不足ニ作戦準備ノ推進整備ニ依ツテ 補充ノ外ナラシカニ 教育ニ最重点ヲ指向ス
- 一 航空特命検閲ノ報告要旨

119

1094

昭和 年 月 日 陸

一 閣議於ケル總理、戦争指導ニ関スル説明要旨

1. 戦局打開

2. 日独提携

3. 日ソ静謐

4. 食糧確保

右四件ヲ當面戦争指導上ノ重要事項ト為ス

一 班長以下別館ニ於テ昭和十九年末ヲ目途トスル戦争指導方策ニ関シ研究ス(從來ノ研究ヲ訂正)

1095

昭和19年 4月21日 金

機密戦争日誌

一、ソノ対日態度ニ関シ松谷大佐 本間中将ヨリ  
意見ヲ聴取ス 要旨左ノ如シ

ソノ対日態度ハ六七月頃ノ戦局ニ依リ相當左右サレテ  
米ノ基地供與ハ一應考慮シ置クヲ要スベシ

一、昭和十八年度木造船建造状況ニ関シ船舶局企画課  
長ヨリ第三部長ニ対シ報告アリ、要旨左ノ如シ

一、自標50万屯(内標準型43万屯、雑ク万屯)ニ対シ、実績ハ

12万屯強(標準型8.7万屯、1748隻(機附24万屯、645隻)

油槽船5450屯、147隻、無動力7200屯、156隻、雑34万屯)ナリ

尚三月末進水ヲ了セルモノ153万屯、起工中ノモノ41.7万屯

船台上ニアルモノ17.7万屯ナリ

2. 木造船実績不振ナリシ原因

1. 造船所ノ資本及規模小ニシテ急激ノ擴張追隨

シ得ス。

2. 造船所夥多(四九三工場)ニシテ計畫徹底セス

3. 査察ノ成果ハ逐次具現シツ、アルヲ以テ今後ハ好轉ス(シ)

3. 十九年度計畫ノ概要

十九年度ハ十八年度未竣工32万ト夏頃迄ニ完成スルヲ

ニ全カヲ傾注シ、然ル後具体化ス

4. 現在ノ造船能力ノ概

六月頃迄ニ完成スル設備能力一五〇一六〇万ト

從ツテ全部テ一〇〇万ト程度ト見ルヲ至當トス(シ)

但シエンジンハ年四〇馬力ニシテモ當リ〇.8馬力ニテ



昭和 年 月 日

換算七八機関附八四五万七十一

機密戦争日誌

121

1098

昭和19年4月22日 土 曜

一 中部太平洋方面遊撃艦隊ノ狀況ハ、パイナップル附近ニ  
敵上陸スルノ氣配濃厚ナリ、  
尚今月末期ニホナペルニ上陸スルノ公算モ亦大ナリ、  
二 中部太平洋方面ニ於ケル海軍航空勢力並ニ今後増勢  
狀況左ノ如シ、  
目下五五〇機(陸攻56機、艦爆100機、中攻100機、隨時使用可能)  
(五月十日625機、200機増加、五月末一航艦ノ300機増加)  
一 ラバウルニ於ケル最近ノ敵投擲量ハ、一日平均一〇〇屯、月  
ニ一、〇〇〇屯ニ達シアリ、  
二 總長ヨリ左ノ如キ注意アリ、

1099

昭和 年 月 日

機密戦争日記

戦局の現段階に應じ第八方面軍の指揮官以下は絶対  
ニ異動セシム可カラス 最後迄兵ト運命ヲ俱ニセシ  
ムルヲ要ス

一「インパール」正面敵の四ヶ師團ナルモノニシテ機ヲ輸送機  
ヲ有シアルヲ以テ空中補給ノミニテモ作戦ヲ繼續シ得

一「インパール」作戦ノ結果最近ノ米空軍ノ入支機數ハ  
減少シツ、アリ

一安慶附近ニ於テ行方不明トナリタル海軍沖中佐ハ

桂林ニアルカ如シ

一独統帥部ハ専ラ第二戦線ニ重点ヲ指向シツ、アリ

昭和 年 月 日 曜

從ッテ佛正面ヨリ兵力抽出シマス

一夜大臣官邸ニ於テ井本大佐、陸軍省有志ト懇談ス。

種村大佐、橋本出席傍聴ス

主トシテ今後ノ戦争指導及陸海軍ノ調整ヲ如何ニス

(キヤカ) 論点トナリタルモ、斯ノ如キ論ハ最早不要ナリ。

各主務事項ニ最善ヲ盡スヲ以テ先決要件トナス意見ハ

各直屈上官ニ卒直ニ開陳スヘシ。

此ノ種企テハ可ナルモ、秘書官政治ニ陥ラサル如ク戒慎ス

ルヲ要ス

1101

昭和19年 4月 23日 日

機 密 戦 争 日 誌

一、昨三十日朝來約一師團ノ敵「ホーランドヤ」ニ上陸中  
「アイタベ」ニモ上陸シツルアルカ如シ。  
一、午後大本營政府連絡會議關係者ノ遠乗會ヲ  
實施ス。十分懇親ノ目的ヲ達シ得タリ。

123

1102

昭和19年4月29日 月 曜

一 戦争指導方策、更ニ検討ス

( 班長以下別館ニ於テ )

1103

昭和19年4月25日 火

機密戦争日誌

一 請國神社臨時大祭舉行セラル

一 タンカーノ海軍増徴問題ニ関シテハ先般來各種ノ  
意見アルモ第一部長トシテハ六月ニハ新造航母九隻進水  
スル實情ニ鑑ミ此際多少認メサルヲ得サルヘシトノ  
意見ナリ

尚A.B物動配分ニ関シテモ目下話合中ナルモ海軍  
部内ニ於ケル反島田・反岡ノ空氣濃厚ナル事情ニ  
鑑ミ此際Aノ讓歩モ亦止ムナリトノ意見アリ  
海軍ノ意見トシテハA.B折半シBニ対シ25%ヲ  
増加トス度トノ意向ナルカ如シ  
此際大局的ニ觀テ陸軍トシテハ海軍ノ意見ヲ採用シ

124

1104

迅速ニ決定スルヲ可トス

一「インパール」東方地ニ於テ一中隊玉碎セリ

近接戦斗地上火器不足ニ依ルモノナリ

一「ホーランダー」「アイタベ」ニ上陸セル敵ハ各一師團ナリ

一内地ニ於ケル防空為目下使用シ得ル飛行機ノ実動数左如シ

東部軍 戦斗396 偵察38 軽爆45 重爆37 計 561 機

中部軍 戦斗143 偵察6 計 149 機

西部軍 戦斗47 偵察7 重爆25 計 106 機

總計 770 機ナリ 内夜間ニ使用シ得ルモノ1/3ナリ

一空襲対策準備トシテ石炭ノ貯炭ヲ左記ノ如ク計画シ

実行セントシツ、アリ(五月十日迄ニ準備ス)



機 密 戦 争 日 誌

重要工場一日分軽易工場五日分 鉄道一五日分  
計 38 万吨

一、次級次長ヨリ左記事項ノ研究ヲ命セラル。

現情勢於テ若シ独ソノ和平成立セハ、改洲和平トナリ

延テ全面和平ニ移行スル公算アルヲ以テ之ヲ封處

方策ヲ如何ニスヘキヤ

昨年御前會議決定當時トハ情勢モ轉換シアルヲ以テ此

際頭ヲ切り換ヘル必要ナキヤ

右次長ノ意見ハ達見ニシテ班内ノ研究モ既ニ概成

シアリ。

一、夜橋本 葦獸医学校ヲ參觀ス 現地自治ニ獸医ノ

昭和 年 月 日 曜

技術ヲ全面的ニ活用スルノ必要性ヲ痛感ス

1107

昭和19年4月26日 水曜

機 務 戦 争 日 誌

一 本日ヨリ次級次長南方ニ出張セラル。

二 燃料輸送為考案中ノゴム袋ノ状況左ノ如シ。

1. カ式

ニ〇〇屯入ヲ一六〇基整備セルモ各種試験ノ結果破損

スルヲ以テ整備ヲ中止セリ。

2. ヒ式

五〇屯入ニシテ50基整備セリ。成績良好ナリ。

3. 右ヒ式ハ「ドラム」罐代用トシテ貯藏用ニ使用スルヲ可ト

シ。運搬用ニ機械帆船ニ「カネビヤ」ラ内張りシテ利用ス

ルヲ可トス（本試験ハ船司ニテ成功シアリ）

「タンカー」増徴問題有部関係課長間ニ協議セルモ

昭和 年 月 日 機

結局成案ヲ得ス。更ニ海軍ノ「シンカ」使用、細部  
計重ヲ聴取、上、研究ヲ進ムルコトニス。

1109

昭和19年4月27日 木 曜

機 密 戦 争 日 誌

一 昭和十九年末頃迄ノ目途トシテ戦争指導方策ニ関シ班長ヨリ高級次長ニ対シ説明ス  
次長意見ノ要旨左ノ如シ  
1. 戦況サハ好轉セハ問題ナシ  
2. 戦況好轉ヲ圖ル為ニハ海陸一体ノ強力ナル空軍ヲ作ツテ反撃ヲ反復スル以外ニ方法ナシ  
之カ為ニ航空ヲ主体トセル海陸思想統一ヲ徹底セシムルヲ絶対ニ必要トシ無茶ヲシテモ本年上半期中ニ最大限ノ戦力化ヲ圖ルコト肝要ナリ  
3. 右見地ニ於テニ班ノ研究案ハ學理的ニシテ徹底サ  
ヲ缺キアリ

127

1110

昭和 年 月 日 曜

高級次長、徹底セル觀察真ニ然可。  
一、右研究案ハ秘書官ヲ通シ總長ニ提出ス

1111

昭和19年4月28日 金曜

機 密 戦 争 日 誌

一 今後、戦争指導ニ関スル中原中佐私案ヲ昨日班長  
ヨリ高級次長ニ対シ参考為提出シタルニ対シ、次長  
意見

「透徹セル考」(ニシテ一觀察ト認メラル)

一 ホランダヤ、本日六時甲分最後ノ連絡アリ。

一 富嶽(遠爆)ノ處置ニ関シ陸海軍需省関係會社参集

協議ノ結果左ノ如クスルコト、ス。

一 富嶽ヲ予定通り製作セハ陸軍943機、海軍235機計1198機

ノ現計重生産ニ影響アリ與フ

一 生産ニ影響アリ與ハサル為ニ職工一〇〇〇―三、〇〇〇名

工作機一〇〇〇台ヲ増加スルヲ要ス

3. 以上ヲ綜合シ現計重四五〇〇〇機ノ完遂ニ邁進スル  
為高嶽ノ製作ヲ中止シ研究問題トシテ残スコトセリ。  
一南方派遣中、白井少佐ノ連絡要旨左ノ如シ。

1. ビルマハ五月中旬ヨリ六月上旬迄兩期トナル。  
0.2 0.3 會戰分ヲ保有シアリ。

2. 比島兵力ノ增強ニ伴ヒ補給諸廠増加ノ要アリ。  
一 回々教大司教ノ活用ハ東亞ニ於テハ宗司カ異ナルヲ以テ  
困難ナリ。

一 昭和十八年末迄ニ於ケル戦死者左ノ如シ  
支那事變關係 約二十万人  
大東亞戰爭關係 約七万人  
一 計約二十七万人



昭和 年 月 日 曜

機 密 戦 争 日 誌

一、<sup>レ</sup>ニエーギヤ<sup>レ</sup>18Aハ依然陸路撤退作戰ヲ續行ス  
 一、西欧第二戦線ハ兵力的ニ見テ準備不完ナルモ政治的  
 ニハ己ハ己ニシテ又所迄來テナル  
 一、高級次長意見  
 帝國ノ危機ハ五、六、七月ナリ、之ニ對處スル為  
 全力ヲ傾注スルヲ要ス、  
 次長ノ意見達見ト謂フヘシ

昭和19年4月29日 土

一本日天長佳節 第四十三回御誕辰當り  
盛大ホール観兵式ヲ舉行遊ハサル  
「バックス」カーチン急死ノ報アリ

1115

昭和19年4月30日 日

續 海 戦 日 誌

一 靖國神社例大祭  
一 本日四時トトラックニ敵機動部隊ノ來襲アリ  
之ヲ迎撃シ敵母艦ニ隻ヲ撃沈セルモノ如ク  
尚交戦中ナリ